

いつか彼らの国で 互いに協力し合い 新たな仕事を生み出したい

日本室内設備工業株式会社

大正12年から内装工事を行う日本室内設備工業株式会社では、社長自ら現地へ足を運び、視察や面接を行うなど、ベトナム人を積極的に雇用しています。今回は同社の取組みを始め、所属する2名のベトナム人を紹介します。



従業員数 **33名**

内) 特定技能 **5名**

技能実習 **3名**

(すべてベトナム人)



クロスジョイント部分の作業に集中するタインさん

Q 受け入れて良かった点は？

とにかく現場からの評判がよかったのが印象的でした。素直であり正直で、年上に対する尊敬の念も持っています。こちらが説明しなくても、教わる立場としての振る舞いを自然とできていたので、先輩たちも親身になって教えるんです。人間関係もトラブルなく、スムーズに現場に入り働いてくれていました。

Q 今後の展開を教えてください。

いずれはベトナム人だけの班を作り、現場のリーダーとして日本の建設市場で活躍できる人材を育てていきたいと考えています。また、ベトナムに帰国する人たちも、日本で学んだ技術を母国で発揮してもらい、現地でも社会のために力を尽くす人材になってもらいたいです。当社はベトナムに現地法人を設立しているので、互いに協力し、新しい仕事を生み出せたらうれしいですね。

受入企業 Interview



代表取締役社長
椎津 雅夫 氏

POINT

- 日本をよく理解し現場にもすぐに順応できた
- 他の業務と兼任のベトナム人通訳を雇用
- 母国へ帰っても海外での強力な人脈になる

Q 受入れを決めた理由は？

今後の人材確保を考えた上でよい機会になると思い、ベトナムの送出国へ視察に行ったのがきっかけです。事前に聞いていた以上に日本の文化や習慣について深く理解していたので驚きました。実際に会話をしてみると、礼儀正しく日本語であいさつもできるし、何より日本で働きたいという強い意欲も感じる。これなら当社でもがんばってくれるだろうと確信しました。



「今の課題は作業スピードを上げること！」(タインさん)

企業プロフィール

所在地 : 東京都港区赤坂3丁目21番13号
キーストン赤坂ビル

事業内容 : インテリアの設計/施工家具の製造販売/
室内造作工事/室内外の改装・改修工事など

Website : <https://www.nihon-shitsunai.co.jp>

初期導入

・寮の確保
・生活家電一式
など

給与体系イメージ

- ・ 特定技能(月額基本給) 約**25万円**~
※諸条件:技能習熟等に応じた昇給あり
- ・ 外国人建設就労者(月額基本給) 約20.4万円~
- ・ 技能実習(月額基本給) 約19万円~



現場で働くみなさんの声

日本での仕事や生活、またこれからの目標について、特定技能1号として働くベトナム出身のタインさん、ファットさんにお話を伺いました。



タインさん 夢は、日本で学んだ技術を持って、母国で仲間たちと会社を立ち上げること！

来日して6年目のタインさんは、社内の特特定技能外国人の中でも技術力に定評があります。クロスの作業に関して「なんでもできます！」と自信を持って答えてくれました。「日本人の先輩たちが時に厳しく、時にやさしく教えてくれたからこそ今の自分があります」ベトナムに帰ったら地元の仲間たちと会社を立ち上げるのが夢とか。今後の活躍に期待です。



ファットさん 日本が大好きな妻の応援を力に、特定技能2号を目指す！

日本の焼肉が大好きだというファットさん。母国にいる妻と2人の子どもを養うために、日本で働くことを決意したそうです。特定技能2号になることが目標で、家族を日本に呼び寄せ一緒に暮らしたいと話すその表情は嬉々としています。「妻が日本の文化が大好きで、私のがんばりをいつも応援してくれています」現在は表装技能士1級を目指し奮闘中です。

Action

受入企業の取組み



取締役営業部長
小栗 裕司氏

特定技能の在留資格を取得しているベトナム人(当時は技能実習生)3名を迎え入れたのが2014年です。送出機関の教育のおかげか、スムーズに現場に入ってくれたので安心しました。ただ心配だったのが言葉です。彼らは日本語を"聞く"ことは得意でも、"話す"ことに難しさを感じています。また、私たち

も彼らが指示を正しく理解できているか確認ができませんでした。そこで、会社として他の業務と兼任で通訳もできるベトナム人女性を雇用し、コミュニケーションについてのサポート体制を取っています。安全に関する説明などは通訳の女性に同席してもらい、日本語では伝わりづらい内容をベトナム語に訳して理解してもらっています。彼らの仕事に対する姿勢は本当に真面目の一言で、とにかく根気強い。現場によっては朝早く現地へ向かうこともあれば、大変な作業が続くこともあります。そんな時でも、「つらい」「眠い」なんて不満は聞いたことがない。そのやる気と向上心には本当に頭が下がります。

Communication

距離を縮める工夫

特定技能外国人や技能実習生には、それぞれ違う現場にいても、毎週木曜日に会社が集まってもらっています。そこでは、社長から直接、現場や作業内容について「どうだった？」と一人ひとりに語りかけ、今の状況や心境を伺っています。危険を伴う仕事を任されている場合は、細かく注意事項を伝え、安全への意識を高めたり、今の時期だと熱中症などにかかる心配もあるので、体調管理などを確認したりしながら、意思の疎通をなるべくはかるようにしています。

Advice

受入れを検討する他社へ



貴重な人材として長期的に育てることを前提に受け入れてほしいと思います。日本人に仕事を丁寧に教えるように、外国人にも接してほしいです。そこでの学びは彼ら自身の後輩へと引き継いでいき、人材育成の上でも会社にとって財産になります。たとえ彼らが母国へ帰ったとしても、海外と日本をつなぐ架け橋になり、グローバル展開する際には強力な人脈となるでしょう。そうした視点で見るとまた新たなメリットが見えてくるはずです。

(2022年6月9日取材)



週に一回、会社が集まりそれぞれの業務の進捗報告を実施

ビールで乾杯！

休日は現場の仲間と親睦会

ご相談
お問合せ



一般社団法人
建設技能人材機構
Japan Association for Construction Human Resources

〒105-8444 東京都港区虎ノ門三丁目5番1号
虎ノ門37森ビル9階
TEL : 0120-220353 FAX : 03-6453-0221

ホームページはこちら
<https://jac-skill.or.jp/>

